

# 尾道の課題、どう解決する？

## 東京の高校生が「体験学習」

### 修学旅行で学び、松翠園でプレゼン

東京の高校生たちが「体験型」の修学旅行で尾道を訪れ、町の抱える課題を発見して「SDGs」をテーマに地域創生の解決策を提案するというプレゼンテーションを26日(水)、松翠園で行いました。

〔稲田真紀〕

東京都世田谷区の「SDGs」をテーマに、持続可能な町の未来のために、自分たちからどう解決するかという案を考案。それを体験旅行中に発表を取り入れています。

近年、大学入試では

従来「知識」だけではなく、自ら課題解決できる「考える力」や「主体性・多様性・協働性」という力も求められるようになり、そのような多角的な能力を伸ばすための取組の一環のようです。

体験学習では、生徒たちは1年ほど前から事前学習をし、訪れる町の課題を探します。

考えてきた案が実現可能か考察を加え、この日の発表となりました。

◆オリジナリティーのある解決方法◆

審査には、現地でのフィールドワークに協力したデイスカバリーリンクせとうちの後藤峻

北海道、松江、北九州と設けられたコースの中から、尾道を選択した生徒は56人。広島を訪れた後、尾道では観光だけでなく、尾道瀬戸田、因島で地元の人と交流し、インタビューもして、町の成り立ちや商店街の取り組みについて理解を深めました。

その上で自分たちの

さん、尾道空き家再生プロジェクトの豊田雅子さん、原田芸術文化交流館やまそらの清水麻紀さん、そして私も参加させていただきました。

13班に分かれ、各5分程度のプレゼン。尾道の人口減少や転出増加、空き家問題などを課題にあげた班が多くありましたが、解決方法はオリジナリティーに富んでいました。

ある班は、尾道水道でアクティビティーができるようにするなど、尾道を「水の都」として売り出すイメージを提案しました。尾道に来て案を大幅に変えた班もあり

ました。空き家をテーマパークにしようと思っていたところ、町の人と話すうち大きな変化は必要ないと感じ、名物だと知ったレモンによる町おこし案を色々提案しました。空き家で映画の上映会を計画した班は、ここで地元の人と観光客の距離を縮めるという目標を語りました。

◆話題性のあるイベントを提案◆

その中で審査の結果1位に選ばれた班は、尾道をもっと人の集まる街にするため、尾道名物を活かした話題性のあるイベントを考案しました。

尾道ラーメンと全国のラーメンを一堂に集めて人気No.1を決める「尾道ラーメン」のイベントや、しまなみ海道を満喫できる「サイクリングイベント」は、有名人を呼んだり初心者向けのコースを設けて知名度の向上を提案。また「猫」をCMや写真展でPRし、インスタのフォロ

ワーを増やして、里親問題の解決につなげるなど、具体例をあげました。

全ての班の発表を聞き終え、引率の大野友也先生からは「どの班も予想を超えた素質を伸ばしている」と、後期間で成長した生徒たちへ、賛辞とエールが送られました。

